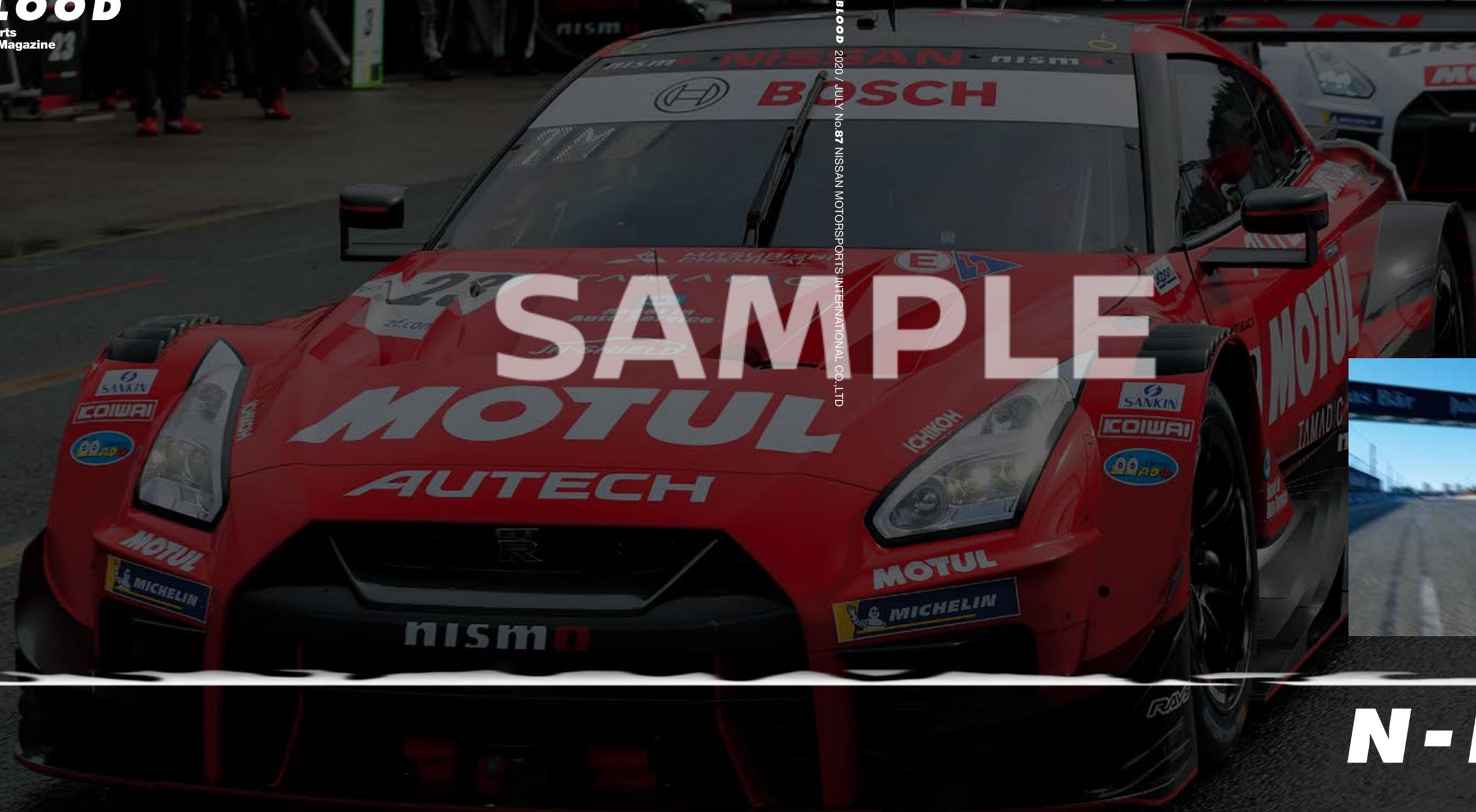




N-BLOOD

NISMO Motorsports
Communication Magazine

NISMO Motorsports Communication Magazine **N-BLOOD** 2020 / JULY No.87 NISSAN MOTORSPORTS INTERNATIONAL CO.,LTD



SAMPLE



N-BLOOD

NISMO Motorsports Communication Magazine
2020 / JULY
No. **87**

nismo

Produced by NISSAN MOTORSPORTS INTERNATIONAL CO.,LTD

目覚めの時は、すぐそこに

人々の生活に大きな変化をもたらした、新型コロナウイルスの脅威
その影響は各種モータースポーツにもおよび、様々なイベントが延期・中止を余儀なくされた
しかし、我々は再び立ち上がる
GTアソシエーションが示した、SUPER GTシリーズ再開に向け
怠ることなく積み重ねた努力の成果を発揮し
多くの人に感動と勇気を与えるレースを見せるため、日産陣営一丸となって、頂点を目指し走り出す
2020年シーズン開幕まで、あと少し——



- 4 **SELF-REPORT OF "STAY AT HOME"**
僕たちの「おうち時間」をご紹介します。
GT500ドライバー4名にリモート取材を実施
- 8 **2020 SUPER GT SERIES-GT300 CLASS**
激戦区を駆け抜けろ
NISSAN GT-R NISMO GT3ユーザー紹介
- 10 **NEW FACE INTERVIEW 3**
藤波清斗
「様々なことを学び、吸収し、結果に結びつけたい」
- 12 **2020 SUPER TAIKYU SERIES**
ユーザーチームが見た
フェアレディZのポテンシャル
- 14 **FIA FORMULA E CHAMPIONSHIP**
柿元邦彦が語るフォーミュラEの魅力
インタビュー：オリバー・ローランド
- 20 **2020 SUPER GT SERIES-GT300/SUPER TAIKYU SERIES**
日産／ニスモと共に戦うチームの
ガレージを訪ねて—NILZZ RACING FACTORY
- 22 **NISMO STAFF**
ニスモお仕事図鑑
23号車を支える若手メカ
【第1回】清水勇斗
- 24 **CRAFTSMANSHIP OF NISSAN/NISMO**
日産／ニスモを支える匠
——笑顔道・井上暁仁さん 河雲栄樹さん
- 26 **PRIVATE CARS**
愛車拝見！
レーシングドライバーのプライベートカー
- 28 **B LICENSE MOTORSPORTS**
参加型モータースポーツでも
日産車が活躍中！
- 32 **SPECIAL TALK**
究極の精度を求めて
松田次生、GT-Rの心臓を組む匠と出会う
- 34 **MOTORSPORTS**
PADDOCK TOPICS
- 36 **NISMO PRODUCTS**
NISMO パーツ最新情報
- 38 **NISSAN/NISMO COLLABORATION GOODS**
ドリフトスピリッツ、Assoluto Racing、Cカークラブ
- 39 **SUPPORTER'S PADDOCK**
読者プレゼント

僕たちの「おうち時間」をご紹介します。

新型コロナウイルスの感染拡大を受けてレース開催が困難な中、4名のドライバーそれぞれにリモート取材を行いました

Self-Report of "Stay at Home"

Text by Ryuji Hirano. Photo by NISMO



Tsugio Matsuda

松田次生

「三重県の実家に戻ってミニカー作りやCPV35スカイラインクーペを改造しています」

こんにちは、松田次生です。3月の岡山国際サーキットでの公式テスト以降、三重県の実家に戻ってきていて、昔のF1をテレビで観たり、デアゴスティーニのNISSAN GT-R NISMOのミニカーを作ったりして過ごしています。このミニカーは、1/8サイズなので作りがいろいろありますよ。まだパーツが全部届いているわけではないので、完成はしていませんが(笑)。早くパーツがほしいです。

また先日は、KONDO RACINGのメンバーとして「e-Nurburgring」というグランツーリスモSPORTのレースに参加させていただきました。あらためてPlayStation4とシートがほしくなっちゃいました。でも、どこに置こうか……。悩んじゃいますね。そんな毎日です。5月末の時点ではまだ東京に戻れていないので、クルマたちが



自粛期間中に開催されたe-Sports「e-Nurburgring」。レース1では、GT-Rで参戦した松田が終盤に大逆転し、優勝を手にした。

ほつたらかしくなっている状態なんです。一方で三重でも乗れるクルマを作ろうと思っています。ブログにも載せていますが、CPV35スカイラインクーペを中古で購入したんです。まずは完全にノーマルで走らせてみて、以前乗っていたクルマのホイールを入れたり、フェンダーを広げたりと改造を始めています。ナンバーを取得しないクルマなので、地元の昔からの友だちと一緒に(もちろんコロナウイルスの感染対策をとりながら)ワイワイいいながら作っています。

CPV35は中古なので初期費用もすごくリーズナブルでしたし、パワーのあるFR車でサーキットでの練習ができるので、若い人たちもぜひ参考にさせていただければと思っています。僕たちにとっても勉強になります。こういう時期だし、何か作れるものはないかな……。と思い、Z33のフェアレディZか、V35で探していたんです。フェアレディZは柳田(春人)さんだし、僕はスカイライン系でいこうかなと(笑)。

それにこのCPV35は、ニスモが展開するパーツも数多くあるのがいいですね。前オーナーがニスモ製クラッチをつけてくれたので、LSDと強化ブッシュを購入しました。これも友だちと一緒に組む予定です。やっぱりクルマいじりは楽しいですね。あらためて色々なことが見えてきます。サスペンションのジオメトリとか、そのクルマ



三重県の実家に戻り、室内や屋内でのトレーニングも行っている。写真は瞬発力や走力を高めるラダートレーニングの様子。

マの考え方とか。お仕事をいただけるのはありがたいですが、ここ数年はあまり時間もなかったもので、こうして実家に帰り、久々に自分の時間を持つことができ、初心に戻ることができました。

相方のロニー(クインタレリ)選手とも会っていません。チームともなかなか会う機会もないですからね。それにサーキットにこんなにも行かないのは、小学生以来じゃないでしょうか(笑)。

今は、レース再開に向けてトレーニングをしたり、三重県は緊急事態宣言が早めに解除されたので、外でも少しずつトレーニングを始めています。とはいえ、レーシングドライバーはレーシングカーに乗るのが仕事なので、コンディションとしては最高にいい……。とは言えないのですが、SUPER GTは6月下旬からテストが始まって、7月からレースの予定ですので、そこに向けて万全な準備を整えていきたいと思っています。

まずは新型コロナウイルスを収束させなければならぬので、みんなでひとつになって取り組むしかないと思っています。また皆さんがサーキットに来て、レースを楽しめる環境を共有できるようにやっていきたいと考えていますし、そうなった時には、僕とロニー選手、NISMOがひとつになって頑張って、レースでいい走り、ライバルメーカーに負けない戦いを見せられればと思っています。



この期間、地元の三重県で走ることができたクルマを購入。選んだのは中古のスカイラインクーペ(CPV35)。まずは曇っていたヘッドライトレンズを磨いて、新車同様の輝きを復活した。フェンダーを広げたり、シートを交換したりと様々なモディファイを敢行中。すでにニスモ製のLSDと強化ブッシュも購入済みだという。



Ronnie Quintarelli

ロニー・クインタレリ

「YouTubeで過去のレースを振り返ったり今まで以上にトレーニングに励んでいます」



久しぶりです。ロニーです。新型コロナウイルスの影響で、3月の岡山公式テスト以来ずっとレーシングカーに乗ることができていません。本来なら4月に開幕して、5月の富士や鈴鹿のレースがあったはずなのですが、2カ月レースがなくて、この何年かとは違うルーティンになってしまっていますね。

でもこの2カ月間は、『SUPER GT Official YouTube』での過去のレースをファンの皆さんと一緒に振り返ってみたり、今までは忙しくてできなかったようなこともできています。特に調子が良かった頃のレースばかり振り返っていましたから、モチベーションを高く保っています(笑)。

それと、僕たちレーシングドライバーはアスリートですから、体のコンディションには気を付けています。できる限り安全なところで、今まで以上にトレーニングを積んでいます。トレーニングの内容は、僕のトレーナーから毎週メニューが届いて、有酸素運動を中心にこなしています。

デスクワークも自宅からできますし、トレーニングやこういった取材(※編集部注:リモートにてインタビュー収録)もあって、サーキットに行かなくても、2カ月はあっという間に過ぎていきます。時間が長く感じるようなことはありません。



自粛期間中は自宅からリモートでのインタビューを受けたり、この時間を利用したデスクワークにも励んだクインタレリ。

違いはレーシングカーに乗っていないことだけですが、早くGT-Rのcockpitに乗り込みたいし、そのための準備はしっかりできています。

それと、この時間を使ってふたりの子どもたちと毎日一緒に寝ることができています。イタリア語の本を読んであげたりもしています。今までは子どもたちが生まれてからも、夜は外で食事があったり、パソコンを使った仕事があったりで、奥さんに任せきりでしたから。今は普通のお父さんとしてのコミュニケーションをとることができています。この2カ月でだいぶ家族の時間を取り戻すことができました。

娘はすでに90%くらいイタリア語を理解していましたが、この2カ月で100%になったと思います。息子はイタリア語はあまり好きではないようでしたが、僕ががんばって話してあげたので、少しずつ理解できるようになったみたいです。こういう時期ですが、子どもたちとコミュニケーションがとれたことは、僕にとっては、すごくプラスになりました。

僕の故郷のイタリアは厳しいロックダウンがされていたので、イタリアにいる家族は長い間ずっと自宅にいました。ちょうど岡山公式テストの時期からでした。元気にしているのですが、まわりには感染者もいたようだし、落ち着いてきたとはいえ、イタリア人にとっては衝撃的な生活になってしまったと思います。

日本ではマスクをするのは普通ですが、僕がイタリアにいた時は、普段の生活でマスクをしている人を見たことなんてありませんでした。実家は大理石の加工を手がけているので、作業をするときに着ける防塵マスクくらいしか知りませんでした。いまイタリアではマスクの着け方まですごく厳しいみたいで、今度イタリアに戻ったら怒られてしまいそうです(笑)。

他のドライバーとは、先日YouTubeで(平手)晃平が開いてくれたトークショーで話したくらいですね。次生とも岡山以来会っていませんが、こんなに会わないのは久しぶりかもしれません。

もちろんファンの皆さんにも会えないのがとても寂しいです。SNSを通じて、皆さんがSUPER GTを観たい気持ちが伝わってきて、みんなも苦しんでいるのだとよく分かりました。僕たちもNISMOも、再開できた時にはしっかりレースをできるよう準備していますし、強い気持ちでいいレースをできるようにしたいですね。



ドライバーのなかでも特にフィジカルへの意識が高いクインタレリ。トレーナーから受け取ったメニューをベースに、自宅で自重を使ったトレーニングを行っている。写真はレーシングカーのcockpitを想定してウエイトをステアリングに見立てたトレーニング。



Kohei Hirate 平手晃平

「4月は『1カ月100kmラン』の目標を達成！
GT-R R34のプラモデルづくりのライブ配信も」



自身の公式YouTubeチャンネル「Rising-K Project」から、様々な動画を配信している平手。この期間は、他のカテゴリーのドライバーとのリモート対談なども配信している。
「YouTubeチャンネル登録よろしくお願ひします!!」とのこと。



新型コロナウイルスの影響で緊急事態宣言が出てからは、ずっと外出を控えています。ジッとしているのが辛くなってしまいうらいうズズしてしまっていて……。でもどうにか過ごしています(笑)。普段はシーズンが始まると家族と過ごす時間はどうしても少なくなってしましますが、今はレーシングドライバーを始めて以来いちばん家族と一緒にいますね。もちろん、トレーニングも欠かさないようにしていて、いつでもシーズンを迎えられるようにしていますよ。
トレーニングについては、ニスモからメニューが送られてくるので、それをメインに取り組んでいます。それと、自宅のまわりでランニングをしています。自分で4月から「1カ月100kmラン」という目標を掲げて、4月は完走したんです！5月は天候が微妙な時があるのですが、なんと

か完走したいですね。
多くの方から僕の公式YouTubeチャンネルについて聞かれますが、昨年「来年YouTubeをやってみようか」という話をしていたんです。たまたまこの時期に重なって始めたかたちになります。動画を撮りはじめて、開幕に向けてアップしていこうかと取り組んでいたところで、コロナ禍になってしまったんです。

配信したなかでも注目を集めたのが、スカイラインGT-Rのプラモデルづくりをライブ配信したことです。僕も34歳になったので、憧れのクルマであるスカイラインGT-R(R34)がほしくて、いま探しているところなんです。でも、この状況で探しにもいけませんし、クルマに関する配信をしたいと思っていたところで、ネットサーフィンをしていたらたまたま見

つけたのがプラモデル(笑)。今までガンダムのプラモデルやミニ四駆は作ったことがあったのですが、ちゃんとしたクルマのプラモデルは初めて作りました。

出来映えは、初回にしてはうまくできたのではないのでしょうか(笑)。最初は缶スプレーでシャッと塗ればいいのかと思っていたくらいですが、やっていくうちにすごくハマりました。1週間くらいかけて作ったのですが、楽しかったですし、SNSでもすごく反響がありました。先日ミニ四駆も作ったのですが、親しみやすいですし、今までモータースポーツと接していなかった人たちと交流ができました。

YouTubeは儲かりますかって？ HIKAKINさんくらいにならないと儲からないですよ(笑)。再生回数で収入になるんですが、ぜんぜんです。



様々な配信動画のなかでも、特に人気が高かったというのが、プラモデルの「R34 GT-R Z-tune」の製作。クルマの模型製作は初挑戦ということだったが、スプレーや工具もしっかり準備して、見事完成させている。

僕たちは日産/ニスモのドライバーですし、あまりハメを外したようなこともできませんから。でも、どんなフォロワーにリーチしていくかを考えて、今後コロナウイルスが収束したら外にもロケに行きたいです。今はこの時期だけ SUPER GTの公式映像が使えるので、利用させてもらっています。

他のドライバーはシミュレーターも活用していますが、僕はあまり使っていません。日本のコースは何万周と走っていますし、1年走らなくてもそれほど忘れないと思っているので。でも、実際にレースが始まるとなったら、しっかり準備したいと思います。

開幕まではきちんとトレーニングを重ねて、いざシーズンが始まったら今年こそGT-Rでチャンピオンを目指していきたいと思っています。パートナーが千代(勝正)選手に代わり、相性もいいですし、彼も速さがあるので、力を合わせればいところにいけると思います。シーズン1勝だけでなく2勝を、そしてタイトルを目指したいですね。皆さんがサーキットでレースを観られる日が一日も早く来ることを願っています。



動画の制作は自宅で機材を組み込んで行っている。日産/ニスモドライバーの枠を意識しつつ、様々なアイデアを温めているという。



自宅で過ごす時間を利用して、負荷をかけたベースアップトレーニングを敢行。また、愛車の日産シルビア(S15)のメンテナンスもじっくりと取り組むことができたようだ。

Katsumasa Chiyo

千代勝正

「自宅にドライビングシミュレーターを設置し
実戦を走れないものの、集中力などを鍛えています」

皆さんいかがお過ごしですか？僕は元気に過ごしています。3月の岡山公式テストからずっとレーシングカーには乗っていません。はじめは何もできない状態だったので、そのなかでもできるトレーニングを少しずつ再開していましたが、この期間を使って、普段できないことをやろうと、いろいろな活動をしています。僕も参加している『KIZUNA』というアスリートに特化したSNSを通じて、ジェンソン・バトン選手との対談など、動画も収録したりしました。

トレーニングについては、マンツーマンのトレーニングジムに行くことができるので、そこで

パーソナルトレーナーについたり、ランニングをしたりと、できる限りのことをしています。やはりある程度体を動かしていないといけませんからね。普段シーズン中にはなかなかできないベースアップのトレーニングや、負荷をかけてのトレーニングをこなしていて、いざシーズンが始まったときにレベルアップできるようなメニューを組んで、自宅でも取り組んでいます。

あと、新しく始めたことといえばe-Sportsですね。この自粛期間でとても盛んになりましたが、自分にも多くの声がかかったので、自宅にドライビングシミュレーターを設置しました。

今は通信でどこにいても、みんなオンラインでレースができますからね。でもこれはこれで、とても難しいんです。シミュレーターをやったからといって実車のドライビングが速くなるかというと、それは分かりませんが、予選の限られた時間のなかでのアタックや、集中力、レースのスタートの緊張感など、やはり人と争っている方が、ひとりで走っているのと違う「何か」があるんです(笑)。この時期あまりレースができていませんが、自分に負荷をかけるという意味では、このe-Sportsはすごくいいですね。

シミュレーターソフトは『グランツーリスモSPORT』と『アセットコルサ』というソフトを使っています。以前僕が参戦していたGTワー

ルドチャレンジを運営しているSROモータースポーツ・グループでは『アセットコルサ・コンペティツィオーネ』というソフトで『SRO e-Sports GT』というレースをやっていますが、SROからも参戦しないかと声がかかっています。ただ参戦台数が多いので、どこかのタイミングでワイルドカードのようなかたちで出場できればいいなとも思っています。『SRO e-Sports GT』はすごくレベルも高いので、出てみたいんです。セッティングもできるので、エンジニアも参加したりしているらしいです。簡単には勝てないレースみたいですよ。

日本ではなかなか実現できてはいませんが、海外のカテゴリーではいまでもe-Sportsが盛り上がっていますね。新しい流れができていて感じます。シミュレータードライバーもすごく速いですし、レーシングドライバーも効果的な練習になる。人と競うことができるのはすごくいいなと思います。

チームメイトの平手選手とはしばしば連絡は取っているものの、直接会う機会はありません。ただ、平手選手はいま積極的に動画配信を行っていますから、時々動画を見たりしています。

いま、こういう状況のなかで日産ファンの方にもご苦労をされている方が多いと思います。シーズンが開幕すれば僕たちは走りて皆さんを元気づけることができると思いますが、今はひたすら収束を願うしかありません。でも、この状況が打開できれば、ワクワクするようなレースをお目にかけていると思います。あと少しだと思しますので、一緒に乗り越えて、サーキットで笑顔でお会いできることを楽しみにしています。

世界中で開催されているオンラインレースに対応すべく、自宅に本格的なシミュレーターを設置。レースができない時間が続くが、自分に負荷をかけるトレーニングにもなっているという。

